

令和7年度 認定こども園仁賀保評価委員会 会議録

1, 日時 令和8年2月24日(火) 10:00~11:15

2, 会場 当園ひまわり組保育室

3, 会次第

- (1) 挨拶、園内一巡、自己紹介
- (2) 令和7年度保護者アンケート、職員自己評価の結果について
- (3) その他
- (4) 質疑応答、指導助言

4, 出席者

巴 真喜子(琴浦)	由利 栄美(琴浦自治会副会長)
佐藤 貴祥(PTA会長)	横山 薫(PTA副会長)
柴田 こずえ(園長)	大高 志津子(副園長)

5, 会議内容

園長より～資料に沿って7年度の振り返り、保護者アンケート、職員自己評価の結果についての説明～

- 今年度は大きな行事は全て好天に恵まれ、気持ちよく遠足や運動会等が実施できた。
- 保護者からはおおむね良い評価をいただいたが、中には貴重な意見もあったので、検討し改善していく。引き続き保護者への丁寧なかかわりで子どもの成長を共有していく。
- 地域と繋がる何かしらのきっかけを探っているが、難しい。
- あかるくなかよくがんばるこども…当園の目指す子ども像として位置付けている。
- 職員が働きやすい職場作りを目指し、より一層のフォロー体制を整えていく。
- ヒヤリハット記録を見直し、共有することで事故防止に努めていく。
- 保護者アンケート、自己評価等を総合的に判断し、最終的にA評価にした。(4段階中)

6, 質疑応答、指導助言

(佐藤)

- ・子ども達のための環境作りを色々やっただけではないか。
- ・ヒヤリハットは子ども目線なのか、大人の目線なのか？事故を防止するためにもぜひ大人での目線でも考えて欲しい。

(横山)

- ・すずらん組になってからイベントが増えて子どもの貴重な体験となっている。その分担任の先生の負担が気になっているので、ヘルプに入っただけ負担の軽減に努めて欲しい。

(巴)

- ・家ではできない経験（味噌作りやピザ作り等）ができる。お泊まり保育では緊張もあったようだが、友だちと一緒にクリアできた。
- ・地域に必要な園だということをもっとアピールできないか？例えば非常時の避難場所にもでき拠点となるのではないか。高齢者、中高生、TDK等異世代交流を細く長く長期戦で続けていければいいと思う。

(由利)

- ・異世代交流の大切さは同感。避難時にはトイレ問題が大きい。地域の会館にはトイレが一つしかない。今後一人暮らしの高齢者が増えていくことを考えると、園を拠点として色々な交流をしていく必要がある。
- ・小学校にマジック教室で出向くが、一昔前の中学3年生頃の様子が今は4, 5年生に現れていると感じる。子どもが変わってきているし、先生も安易に怒れなくなっている。少子化だが子どもが変わってきている分大変になってきている。